



ネットワーク 通信 No.11

◆ 2019年度開催の交流会 ◆ (宮城県対がん協会にて、全2回)

第1回は6月28日(金)、早坂美恵さん(宮城県がん対策班長)より、第三期宮城県がん対策推進計画についてお話をいただいた他、事務局及び各団体からの報告がなされました。17団体より30名のご参加がありました。



第2回交流会は2月14日(金)。第1部では

「がん患者会やサロンにおけるグリーフケア」 ～参加者の死をどう伝えますか？～

滑川明男先生(仙台市立病院精神科医長)よりグリーフケアについてお話をいただき、19団体より30名の方にご参加をいただきました。



「グリーフ」とは「喪失に対する反応」で、「喪失」とは「変化」のこと。

グリーフは、死別体験後に感じるものだけではなく、生活が何か変わる時、必ず生じているそうです。がん患者になったという“変化”、健康だった自分を“喪失”した等、そういったどの様な変化(喪失)であってもグリーフを生む。それにどうケアをしていくか、お話を伺いました。“これが答え！”というものが無いので悩みますが、滑川先生からの沢山の学びを基に、喪失にきちんと向き合い、その感情を大切にしながら、ケアに携わる事が出来るようにと思います。

第2部：グループディスカッション+ご報告

第2部では、滑川先生のグリーフケアのお話を受けての「グループディスカッション」が行われました。自分たちの会やサロンにこれまで来られていた参加者さんがもし旅立たれた時、他の方々への対応をどうしているか等、お互いに体験や考えを交換したり、滑川先生も各グループに入ってお話して下さったり、とても有意義な時間となりました。この後は、事務局からピアサポーター養成に関する県内の動きが報告され、団体からのお知らせもありました。



ギター生演奏&歌

「Death Cafe Sendai (デスカフェ仙台)」代表の庄子昌利さん。ご参加のみなさんに少しでもくつろいでいただけるようにと、ギターの弾き語りをしてくださいました。アンケートでは、「とても素敵な声で癒された」「癒されて(気分転換に)よかった」「弾き語り、音楽がよかった」など、お声をいただきました！



新型コロナウイルスは、世界中の政治、経済、スポーツ、芸術等あらゆるところに影響を及ぼし、国民の生活を脅かしています。このような時、私たちはどうすれば良いのでしょうか。2011年3月11日を思い出します。私はこの体験の中で一番大切なものは人と人の繋がり、絆であることを教えられました。ネットワークはその想いを引き継いでいます。

今回も、自分を守るためにまず感染対策5つの実行、そして他人をも案じ思いやり、情報に振り回されず、今できることをしっかり実施して乗り切っていきましょう。
(がん患者会・サロン ネットワークみやぎ 代表 吉田 久美子)